

(別紙3)

平成28年度介護支援専門員「専門研修課程Ⅰ」(更新研修を兼ねる)
研修プログラム(案)

※研修は7日間です。全課程受講できる方が対象となります。

日程	日付	講義・演習	時間数	時間(分)	課目	目的
1日目	平成28年6月1日(水)	講義・演習	6	360	① ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定<1/2>	介護支援専門員としての実践の振り返りを通じて、ケアマネジメントプロセスを再確認した上で、専門職としての自らの課題を理解する。
2日目	平成28年6月2日(木)	講義・演習	6	360	① ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定<2/2>	
3日目	平成28年6月3日(金)	講義・演習	2	120	⑥-6 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、利用者が活用しうる制度に関する知識及び関係機関等との連携を踏まえたケアマネジメント手法を習得する。
		講義・演習	3	180	⑥-5 家族への支援の視点が必要な事例	家族への支援の視点が特に必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、家族への支援の視点も踏まえた効果的なケアマネジメント手法を修得する。また、演習等で得られた家族への支援に係る示唆、留意点等を踏まえ、他の事例にも対応することができる知識・技術を修得する。
		講義・演習	2	120	⑥-7 状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例	状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、介護保険で提供される地域密着型サービス等の活用に関する知識及びケアマネジメントの手法を修得する。
4日目	平成28年6月4日(土)	講義・演習	3	180	⑥-3 認知症に関する事例	認知症に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、認知症に関する知識及び認知症の要介護者等に有効なサービスを活用した効果的なケアマネジメント手法を修得する。また、演習等で得られた認知症の要介護者等に対して有効なサービスの活用に関する示唆、留意点等を踏まえ、他の事例にも対応することができる知識・技術を修得する。
		講義・演習	3	180	⑥-4 入退院等における医療との連携に関する事例	入退院等における医療との連携に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、医療との連携に必要な知識及び医療との連携を踏まえたケアマネジメント手法を修得する。
		講義・演習	2	120	⑥-1 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	リハビリテーションや福祉用具等の活用事例を用いて演習等を行うことにより、リハビリテーションや福祉用具等の活用に関する知識及び効果的なケアマネジメント手法を修得する。また、演習等で得られたリハビリテーションや福祉用具等の活用に関する示唆、留意点等を踏まえ、他の事例にも対応することができる知識・技術を修得する。
5日目	平成28年6月17日(金) ※宮古・八重山は通信学習を予定しています。	講義(通信)	3	180	② 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	介護保険制度の最新の動向や地域包括ケアシステムの構築に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する制度等を理解する。
		講義(通信)	3	180	③ 対人個別援助技術及び地域援助技術	対人個別援助技術(ソーシャルケースワーク)と地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)の違いと役割を理解する。
6日目	平成28年6月18日(土) ※宮古・八重山は通信学習を予定しています。	講義(通信)	2	120	④ ケアマネジメントの実践における倫理	ケアマネジメントを実践する上で感じた倫理的な課題を踏まえ、チームで対応していく際のチームアプローチの方法及び高齢者の権利を擁護する上で必要な制度等を理解する。
		講義(通信)	4	240	⑤ ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践	実践を通じて感じた医療との連携や多職種協働に関する課題を踏まえ、今後の実践に向けて必要な知識・技術を理解する。
7日目	平成28年7月6日(水)	講義・演習	2	120	⑥-2 看取り等における看護サービスの活用に関する事例	看護サービスの活用が必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、看護サービスの活用に関する知識及びケアマネジメント手法を修得する。
		講義	2	120	⑦ 個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	指導・支援、コーチング、スーパービジョン等の違いを踏まえ、自らがそれらを受ける際の心構えや、専門職として不断に自己研鑽を行うことの重要性を理解する。
		講義・演習	2	120	⑧ 研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽の意欲を高める。また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。	研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽の意欲を高める。また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。
自宅学習 ※事例読み込み・課題抽出(3日目・4日目・7日目の講義・演習内で取り扱います。)			2	120	⑥-1 リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	
		2	120	⑥-2 看取り等における看護サービスの活用に関する事例		
		1	60	⑥-3 認知症に関する事例		
		1	60	⑥-4 入退院等における医療との連携に関する事例		
		1	60	⑥-5 家族への支援の視点が必要な事例		
		2	120	⑥-6 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例		
		2	120	⑥-7 状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例		
			56	3,360		

※日程は確定しておりますが、プログラムの内容は変更になる場合があります。(受講決定通知と併せて正式なプログラムを案内いたします。)